

瀟和流会誌

令和3年4月



舞は心 心の舞は芸の道

目 次

はじめに 山口園雲	1
-----------	---

第1章 令和2年瀬和流詩舞道会のお浚い会

一瀬和流コロナ時の政策一 宗家 中島園心	2
一お浚い会に参加して思うこと一 穴澤郭心	4
一お浚い会に思うこと一 山城心燐	6
一ビデオ撮影会を終えて一 中山心雅	8
一お浚い会の思い出一 佐竹心康	10
一三中公民館でビデオ撮り一 斉藤園美	12
一居合の演武で思うこと一 山口園雲	14
一ビデオ撮影会一 中元園颯	16
一お浚い会に参加して一 飯野園士	18
一ビデオ撮影会に参加して一 安田園紅	20
一初の瀬和流成果発表会に出て一 野田英志	22
令和2年のお浚い会の記念写真	24
一武田節に思うこと一 山口園雲	25

第Ⅱ章 東京地区刀法講習会および段位審査会

一刀法講習会に参加して一 野田英志	30
一刀法4段に挑戦一 山口園雲	31
一居合について一 山口園雲	32

はじめに

瀨和流詩舞道会は、瀨心流詩舞道会 佐々木瀨戈ご宗家より独立を認可され瀨和流詩舞道会が誕生しました。瀨和流の名前には、川の流れる水と水とが手をつなぐように、和み、優しく、美しくという意味が込められています。

本会では、漢詩、古典、現代詩を吟詠に合わせて舞う吟剣詩舞や詩文の内容を学び、また、扇や刀を扱った全身の動きを身に付けながら精神修行をしています。古来から培われてきました日本の伝統文化を通して地域の活性化に貢献できることを目的に活動しております。

一人一人が、中島園心宗家の指導のもと、詩舞・剣舞・居合・詩吟を基本に心身を磨いています。

今回、瀨和流詩舞道会の活動を皆様に、ご披露するように会誌を刊行する運びとなりました。そして、この冊子が日本さらには世界の皆様に日本の伝統文化についてご理解していただけたら幸いです。

なお、表紙の紋は、瀨和流詩舞道会の流派の紋であり、宗家の橋家紋をもとに、瀨和流がますます飛躍することを願い、縁起の良いといわれる鶴をイメージし、丸に橋鶴を表したものです。

令和3年4月吉日

瀨和流詩舞道会 山口園雲

第1章 令和2年瀬和流詩舞道会のお祝い会

—瀬和流コロナ時の政策—

宗家 中島園心

令和2年11月15日 土浦市三中公民館にて、「瀬和流詩舞道会のお祝い会」のビデオ撮り及び写真撮影を行いました。

全世界にコロナ禍と感染拡大が広まりつつ、イベントの中止も報道される中、一般的に舞台発表のないお稽古だけの風潮と成っている様で有りました。そこで、今回は今までとは違う初の試みである企画を致しました。

演舞者は観客の無い発表に、それぞれが気迫と緊張感の舞台作りです。

事前準備等は、会場予約、着付けの手配を中山さん、お弁当の手配、会計を山城さんが中心となり、会場整理（机、椅子、準備や片付け）や楽屋のマナーも協力し合っている様子が伺われました。

会員の各々お稽古の場所が違う為、合同舞台で親しみを持って仲間と融合し、スケジュールは滞りなく順調に幕を閉じることができました。

終了後は、会員の方々に感想文を書いて頂き、山口さんがまとめて下さることになりました。

私は、今年度の実績を何かの形で残してあげたい気持ちで、計画を致しました(時間は過ぎ去る、やっておかなければ、二度とその時は戻らない)。

今回はこのような形で締めくくりができて良かったと思います。



—お浚い会に参加して思うこと—

穴澤郭心

三中公民館にて瀬和流詩舞道会のビデオ撮影会が行われました。宗家中島先生が計画してくださり、一人何役もの役割を果たし、会員が舞台上で精一杯表現できるよう心配して下さいました。心から感謝致します。ありがとうございました。

私自身の件ですが、詩舞「東風吹かば」では管原道真の和歌の踊りは詩心を表現するのが難しく、女性の立ち振る舞い、特に、足の運び方がとても難しく感じました。剣舞「本能寺」は、明智光秀の心中の表現、刀のさばき、刀法七本は基本練習をやり直す必要があると反省しました。着付け、衣装、袴、扇子、曲のイメージに合うものを先生のアドバイスを頂きながら舞台上に立ったのですが、後日写真を見て分かったこと、袴のしわに注意すべきでした。身支度は着付けの方をお願いしたのですが髪型、化粧、衣装、扇子、色の調和等学ぶべきことが沢山あると感じました。

会員参加者11名差し入れに来られた木村さん協力者3名と着付けの方、今回のようにお稽古のお浚い会は新型コロナウイルス感染のため密にならないように自粛された中で消毒、マスク着用等に気配りをしてビデオ撮影会ができましたこと改めて貴重なことと思います。会員一同無事終了し—安心いたしました。なお、年に一度前期と後期に会員一同、お互いの芸の技量や振興または刀法、研修会を行う必要があると思いますが如何でしょうか。先生よろしく申し上げます。

詩舞の稽古は、師匠から振りを頂いたら、素直に振りどおりに練習する。また、詩文の読みを正確に暗記、詩心を表現できるように心の行まで練習する。舞台上で表現し、多くの方々の演技を鑑賞して表現法を研究する。演技を磨くためには、講習会やコンクールなどに参加して技術と心身を鍛錬する。私の瀬和流詩舞道会についての考えは、①組織を作ること、②行事の設定、③会員の結束、そして、師匠と会員の絆、会員の健康とたゆまない努力、太い絆で結ばれ、つくば市、県に、日本に、世界に知られる団体に成長するよう師匠を中心に頑張りましょう。

穴澤 郭心



和歌・東風ふかば



刀法 七本

律詩「本能寺」



—お祝い会に思うこと—

山城心燐

お祝い会におきましては、コロナ禍先生を始、音響、カメラ、ビデオの方々には大変お世話になりまして、大変ありがとうございました。

私は練習不足で不安だらけの踊りでしたが、久々の緊張感は最高でした。また、他の会員の方々の上達振りに感動しました。今後は切磋琢磨で頑張りたいと思います。先生、このような機会を与えてくださり本当に有難うございました。これからもよろしく願いたいします。

私は福岡から 40 年前につくばに来ました。現在、3 人の子供夫婦と 8 人の孫達に囲まれて忙しく過ごしております。そんな中で唯一の息抜きは詩舞のお稽古の時間です。詩舞歴約 20 年、数年のわりには技術が乏しく申し訳ございませんが、これからも楽しく踊らせて頂きたいと思っております。先生、これからも、飴と鞭を使ってご指導のほどよろしく願いたいします。

私の舞った『寿契り酒の歌詞』

(詩吟) 婦となり夫となる

めでためでたの夫婦の門出、命重ねる夫婦の門出
命重ねる金屏風、人生苦勞を分け合って
きっと幸せ咲かせます、祝い寿契り酒

今は若い番の鳥も、いっか大空飛んで舞う
見ていて下さい温かく、きっと幸せ咲かせます
祝い盃契り酒

枝は栄えて末広がりに、夢を大事に育てます
哀しい時ほど支え合い、夢を大事に育てます
祝い高砂契り酒

寿 契り酒
山城 心燦



—ビデオ撮影会を終えて—

中山心雅

撮影会ではいろいろお世話になり有難うございました。お天気にも恵まれ良い一日を迎える事ができました。しかし、当日、私は体調が悪くなり、めまい等がして頭が真白になってしまい最悪な結果になってしまいました。気使いするどころか先生や皆さんにもご迷惑おかけしたのかと申し訳なく思っております。先生のお力により無事立派な撮影会になったと確信しております。

初めての経験でしたので心配でしたが、素晴らしいビデオが出来上がっている事と楽しみにしております。コロナ禍ですが、お互いに意識しあって健康に気を付けて頑張りましょう。

コロナ禍がなかなか終息しないなか、先生からインターネット駆使しYouTubeを立ち上げる事を聞きビックリいたしました。

私などでは、とうてい考えつかぬ事でしたが、先生のご尽力と努力が実を結ばせたのです。頭が下がります。これで全世界につくば吟剣詩舞を発信させる事が出来ます。壮大な夢を先生は実現させました。素晴らしい事です。映像の中に私達も出演させていただく事が出来、大変うれしく思っております。本当にありがとうございました。

私は詩舞を初めて、早18年になりますが奥が深く、学ぶ事ばかりです。なかなか上達できませんが、これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

伊達政宗の名言

『大事の義は、人に談合せず、一心に極めたるがよし』すなわち、重大な選択をする際は、他人に相談して意見を求めたり、さまざまな情報を調べることは大切であるが、最終的な判断は自分自身ですべきである。



結城の郷
中山心雅



—お浚い会の思い出—

佐竹心康

中島宗家より詩舞および居合を長い間ご指導を受けておりましたが医師のご指導で辞めました。しかし、宗家のお薦めにより1昨年より齊藤さんと再び三中公民館で先生の稽古を受けるようになりました。また、新しく直江兼続所用の写し居合刀を新調して、心も新たに稽古を行っています。しかし、コロナ禍散歩もままならず体重が以前より増加しました。また、病気の影響で時々居合の順番を忘れることがあります。

今回は、居合1から5本を立ち技で披露しましたが、やはり途中一部を間違えました。しかし、自分としては精一杯頑張り、無事に終わりました。これからも頑張りますので、皆様方宜しく願います。

私は、現役時代はタンカーの船長を勤めており、世界各地を訪問してきました。その間、海外から日本をみたとき日本の伝統文化が頭によぎりました。退職後、中島先生の瀨和流詩舞道会に入門し、詩舞と居合のご指導して頂きました。

先生はときには厳しく、また優しく親切に接して頂き、こんなところが、私は好きです。

私は医師のご指導で辞めました。しかし、宗家のお薦めにより1昨年より再び先生の稽古を受けるようになりました。病気の調子をみながら頑張っていきたいと思いますので皆様よろしく願います。なお、稽古の送迎を毎回行ってくれる妻には大変感謝しております。今後ともよろしく願います。

上杉謙信の名言

『人の上に立つべき人の一言は、深き思慮をもってなすべき』すなわち、軽い気持ちで発した言葉は、他人の心を傷つけたり、思わぬ波紋を広げてしまう。それは、人の上に立つ立場の人なら、なおのさらのことである。



刀法 五本
佐竹 心康



—三中公民館でビデオ撮り—

齊藤園美

秋晴れの日には三中公民館で中島宗家一門が集まりビデオ撮りをしました。生徒の皆さんのおどりはとても素敵でした。私も無事に終わりました。この企画をされた宗家に感謝します。ビデオが楽しみです。これからも皆様と集まる機会があることを願っています。コロナに負けない様頑張りましょう。

私が居合を始めたきっかけは佐竹さんとノルディックウォーキングで知り合いになったことです。佐竹さんのご紹介で中島先生の道場に主人と二人で入会し、稽古に頑張っておりましたが、主人は途中で腰を悪くして辞めてしまい、現在、私一人が続けております。

なかなか上達せず自分の力不足に失望し、何度か辞めてしまいたいと思いましたが、やはり居合は楽しく奥が深く魅せられました。

宗家は私のような未熟者に凝りもせず、時には厳しく、優しく教えて下さりとても感謝しております。これからも末永くご指導よろしくお願い致します。

70歳の手習いと4～5年経ち刀法二段の免許を頂きました。三日坊の私がこれ程続いたのは驚きです。宗家のおかげだと思っております。これからも続けていきたいのでよろしくお願い致します。

織田信長の名言

①『大事の義は、人に談合せず、一心に極めたるがよし』すなわち、重大な選択をする際は、他人に相談して意見を求め、さまざまな情報を調べる事は大切であるが、最終的な判断は自ら行うことが重要である。

②『絶対は絶対にあらず』すなわち、自分を勇気づける「絶対に不可能と思えることでも突破口はある」という意味と、自分を戒める「絶対に大丈夫と思った時点で隙が生まれる」という2つの意味を持ち、前者は常に考えて行動せよということであり、後者は大丈夫と思った時点で成長が止まってしまうことを危損せよという意味をもつ。



刀法 五本
齋藤 園美



—居合の演武で思うこと—

山口園雲

居合では、穴澤さん、佐竹さん、斉藤さん、野田さん、山口の5名日頃の稽古の成果を撮影して頂きました。

私は、刀法1本から7本の演武を行いました。居合は、通常、道場や体育館で行われますが、瀬和流の場合、居合と詩吟の融合を図り舞台で行うことがあります。これまでも、色々の舞台で演武を行ってきました。しかし、舞台は手狭で、毎回、難儀しております。

特に、7本目は歩行中に前からくる敵の殺気を感じ追い込んで連続技で勝つもので、舞台が狭いと難儀します。また、舞台上で演武することは、人前で演技しますのでそれなりに度胸がつき、居合の昇段試験にも役に立ちます。

この撮影会は、会員の日頃の稽古の成果を写真やビデオに記録することですが、瀬和流には詩舞や居合の会員と色々な方がいます。

それぞれの会員により稽古の考え方は異なります。私は、稽古は「千日の稽古を鍛し、万日の稽古を錬とす、能々吟味るべきもの也(宮本武蔵)」と「石の上にも三年」と考えます。すなわち、きびしい鍛錬や修養を積んで、技芸や心身を強くきたえること、また、我慢強く辛抱すれば必ず目的を達成するものと考えます。

今後も、この精神で日々の稽古に励みたいと思います。このような機会を企画して頂いた中島宗家には感謝しております。

宗家は、日頃、日本伝統文化の継承に頑張っております。最近では、YouTube『吟剣詩舞道の魅力』を立ち上げ吟剣詩舞道の普及を図っております。瀬和流詩舞道会の発展には、このような広報活動や日頃行っている舞台での披露に加え、幼稚園や小学校へ赴き舞台披露が必要と考えます。

このような宗家の伝統文化の継承活動を発展するには会員一同の団結・協力と日頃の稽古が最も重要と考えます。そのためには、例えば、芋掘りイベントなどを行うことも会員同士の親睦会や交流活動も必要であり、会員の協力が極めて重要と考えます。会員の皆様、ご協力とご理解をお願いします。皆で頑張りましょう。



刀法 七本
山口 闕雲



—ビデオ撮影会—

中元園 颯

今年はコロナの影響で、舞台もなく発表の場所がありませんでした。このままでは、この先も踊ることができるのか不安でした。ビデオ撮影会があると聞き、すこし体の芯がピッとしました。

武田節で、飯野さん、安田さんの三人でお稽古をして頂き、また、楽しい時間を過ごすことができました。久しぶりに、女踊「ほたるのふる里」を踊らせて頂きました。とても難しく勉強になりました。当日も、先生、写真、ビデオ、音響の方、皆様にお世話になりました感謝です。これからも、長く続けていけるように努力します。

今回のビデオ撮影で、私の反省および感想ですが、衣装は先生のアドバイスもあり、とても良かったです。髪飾りについてはやはり白がよかったと思います。

コロナがまだまだ収まらないと思いますので、舞台やコンクールなども、今年は無理と考えます。したがって、コツコツと稽古に励み、特に、群舞にも挑戦してみたいとおもいますので先生、ご指導のほどよろしく願いいたします。

和歌『何事も』

曾禰好忠

『何事も行きて祈らむと思ひしに神無月にもなりにける哉』

訳 何としても（神社に）行ってお祈りしようと思っていたのだけれど、気づけば（神様不在の）10月になってしまったなあ。

西行続拾遺和歌集雑秋596

『何事もかはりのみゆく世の中におなじ影にてすめる月かな』

訳 何事も変わってばかりゆく世の中に、ただひとつ、はるか昔から変わらぬ同じ光を放って澄んでいる月よ。（訳：梶間和歌）

ほたるのふる里
和歌「何事も」
中元 園颯



—お浚い会に参加して—

飯野園士

澗和流詩舞道会のお浚い会について、コロナ感染で舞台も無く何事も自粛だったので、舞台があると思ったら嬉しくなりました。

平将門は、1人舞台でしたが、武田節は三人で踊る為、早めに行って練習しました。このような初めての舞台経験は、周りの環境との雰囲気の中、練習不足の為、緊張して間違えてしまいました。

宗家先生が何気なく動き回っている様子や履物をきちんと揃え直しているのを見て感動いたしました。これからも、よろしくお願ひしたいと思います。

私は2018年1月に入門し、2019年1月には園士の名を授かり、同年の3月には、日本詩舞道連盟より、詩舞初段に合格しました。まあまあ、順調に進めさせていただいております。

今回のお浚い会を終わり、CDを見て、所作や動作に反省するところの多さを痛感しました。今後、稽古に励み、納得できるように精進したいと思います。

私自身、年々年を重ね身体の動きが悪くなり、それに連動して物忘れも多くなりましたので、稽古では、焦らずゆっくりマイペースで行ってまいりたいと思います。先生、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

豊臣秀吉の名言

『戦わずして勝を得るものは、良将の成すところである』すなわち、戦わずして逃げるのではなく、戦わずして勝つという点である。秀吉は、戦うべきときは徹底的に戦うが、その一方で不毛な戦いで味方の被害を出すことも嫌った。「兵糧攻め」や「水攻め」でギブアップさせる作戦も、被害を最小限に抑えながら勝を得るという点で理にかなった戦術である。

黒田官兵衛

『上司の弱点を指摘してはならない』すなわち、上司の弱点に気づいたら、そこを部下として補完することが大切であり、そのことが上司から信頼され、ひいては責任のある立場に取り立ててもらえることができる。

歌謡吟詠
和歌入り「平将門」
飯野 園士



—ビデオ撮影会に参加して—

安田園紅

今日は朝から久しぶりの舞台でワクワクしました。今回初めて女型の舞を教えて頂きました。最初にリハーサルして、本番を迎えたのでスムーズに舞台に立つ事が出来ました。皆様と久々にお会いでき、また、お元気なお姿を見て嬉しく思いました。

先生や先輩の方々の事前準備のお陰で無事に終わる事が出来ました事、本当に心より感謝しております。日頃の厳しいご指導のお陰で私なりに気持ちよく舞う事が出来ましたこと嬉しかったです。これからも、よりいっそう上手に踊れるように努力して行きたいと思致します。本日は良い経験をさせて頂き、有難うございました。

私は福岡出身で焼肉屋を経営しております。高齢者ですが若者に負けじと頑張っています。

今回のビデオ撮影では、まだまだ全てに対して未熟で皆様方にご迷惑をおかけしております。何歳になっても健康で一途で清らかな気持ちを忘れずに自分らしく居たいと思致します。

先生には色々と稽古をご指導して頂いておりますが、もっともっと女性らしい詩舞をご教授いただければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

私の舞った『明日坂の歌詞(詩吟入り)』の歌詞

愛の荷車ふたりに引いて、夢の懸け橋越えていく
今日の二人の目出たい門出、飲んで一節添えましょか
唄も祝いの宝船

寿海波平かにして紅旭鮮かなり

遙かに見る宝の字錦帆の懸るを

順風満帆船出しても、やがて嵐の海に出る
辛い時こそ三三九度の固い契りを思い出せ
夢も番いの夫婦雛
知らぬ同士で生まれても赤い縁しの鶴と亀
照る日曇る日人生出河、風も寿ぐ明日坂

明日坂 詩吟 「宝船」 入り
安田 園紅



—初の瀬和流成果発表会に出て—

野田英志

当日私は、居合メンバー5名の1番手で、1から3本目を演武しました。神前の礼に始まり、1本、2本、3本と途中間違いもありましたが、なんとか、神前に礼をして終わることができました。居合を始めて日が浅いのですが、先生・先輩たちの熱心なご指導のおかげです。演武の前の緊張感とともに、神前に礼をして、下がる時のすがすがしさが心地よく、時間にするとわずか数分ですが、充実した時を経験させて頂きました。居合以外の瀬和流会員の皆さまの詩舞も、一部拝見させて頂きました。着物姿の美しい詩舞を全部見られなかったのが残念でした。

居合は、確か一昨年末、イオンカルチャーでの詩吟教室で、中島先生からやってみないかと声をかけて頂き、途中、新型コロナ禍などでもたつきましたが、昨年（令和2年）7月に始めました。小生69歳ですから、足腰補強と背筋の保持を主な狙いとして、当面3年ほどを目標に色々学びたいと思っております。濃州堂で居合刀を新調し、手にしたときは感動モノでした。居合道着と刀を身に着けると、なんとも気の引き締まる清々しい気持ちになります。武道系と言えば、十代後半に剣道と少林寺拳法を少々やって以来50年もの空白がありますが、居合の瞬発性には何か繋がる場所があるのかもと感じます。

60歳の定年を機に、時間に縛られたサラリーマン生活から離れて、念願の年金自適生活を始めて約十年。家庭菜園と自山の整備（薪づくり）、薪ストーブで愛猫と暖を取り、読書と尺八を楽しむ生活に、居合が新たに加わりましたが、無理のない範囲で続けて行きたいと考えています。中島先生には種々御教示いただいております。

「聞くは一時の恥、聞かざるは末代の恥」（私の母の口癖）で、小生しつこく色々聞きますが、イライラせずこれからもよろしくご指導ください。いつも稽古で一緒の山口・斎藤両先輩からも学ぶところが多々あります。今後もよろしく願いいたします。



刀法 三本
野田 英志



下記の写真は今回のお浚い会に参加いただいた皆様です。



令和2年お浚い会の記念写真(土浦三中公民館に於いて)

左上より野田さん、斉藤さん、安田さん、山口さん、中元さん、飯野さん、左下より千葉さん、中山さん、瀬戸さん、中島ご宗家、山城さん、佐竹さん、穴澤さん

浄和流詩舞道会 YouTube のお知らせ

この度、中島宗家がインターネットの YouTube に吟剣詩舞道の魅力【つくば市オンライン文化芸術】を発売しています。キーワードはつくば市、吟剣詩舞道を入力して検索するか、下記の QR コードあるいはアドレスで見られます。



吟剣詩舞道の魅力

(<https://www.youtube.com/watch?v=BpGyrlEISfA>)

一武田節に思うこと一

山口園雲

中元さん、安田さん、飯野さんの舞った『武田節』は、1961年に作られた民謡調歌曲であり、作詞は米山愛紫、作曲は明本京静です。本来は三橋美智也が歌唱する民謡調流行歌あるいは新民謡と呼ばれるジャンルの曲ですが、山梨県の民謡が少ないこともあり、現在は山梨県の民謡とみなされることがあります。



武田節を舞う安田さん、飯野さん、中元さん

歌詞

甲斐の山々 陽に映えて
われ出陣に憂いなし
おのおの馬は 飼いたるや
妻子につつが あらざるや あらざるや

祖霊まします この山河
敵にふませて なるものか
人は石垣 人は城
情けは味方 仇は敵 仇は敵

(詩吟)

ときこと 風のごとく しずかなること林のごとし
しんりやくすること火のごとく うごかざること山のごとし

躑躅ヶ崎の 月さやか
うたげを尽くせ 明日よりは
おのおの京を めざしつつ
雲とおこれや 武田節 武田節

この歌の内容は戦国大名の武田信玄公とその配下の武士たちの出陣の様子を歌にしたもので、曲の間には風林火山の文句を歌う詩吟が挿入されています。

私はこの歌が大好きです。というのも、私は、太平洋戦争終戦前（1945年5月25日）に山梨県甲府市穴切り町で生まれました。ここは、中央本線甲府駅の南にある甲府城（別名、舞鶴城）の西約1キロにありました（家は1945年7月6日深夜から7日の空襲:たなばた空襲で焼失したと聞いています）。

甲府城は、武田氏滅亡後、豊臣秀吉の命により築城されました。関東の徳川家康に対抗するための重要な戦略拠点として築かれたといわれ、徳川体制になってからは西側への備えとしての重要性を保ち続けたといわれています。



甲府城復元された鉄門

北には武田節に出てくる躑躅ヶ崎館があり、現在、甲斐の国（山梨県）の名将武田信玄公をお祀りしている神社になっています。ここは、甲斐武田氏3代、信虎公・信玄公・勝頼公が60年余りにわたって国政を執った「躑躅ヶ崎館跡（武田氏館跡）」に、1919（大正8）年に武田神社が創建されました。境内には当時からの濠、土塁、石垣、古井戸等が残り、宝物殿には国指定重要文化財の「太刀銘『一』」をはじめ、武田氏ゆかりの、また往事を偲ばせる鎧・甲冑・刀剣などが展示されています。お濠の近くには小学校の恩師山本信重先生のお宅があり、西には武田信虎が築いた湯村山城址（湯村山）、北には武田信玄公が生まれた要害山城址（要害山）もあり、よく山に登り遊びに行ったものです。



躑躅が崎館跡（武田氏館跡）の石垣と濠



湯村山(湯村山城址)



要害山(要害山城址)

このような環境のもと幼小期を甲府で過ごし、特に武田信玄公は、戦国最強軍団のリーダー、甲州金山の開発、釜無川の治水工事、武田氏の隠し湯の構築などの色々の業績があり、私の尊敬する人物です。

私は、大学、民間企業を経て昭和 52 年 9 月より国立公害研究所(現国立環境研究所)に勤務して、つくば市に住むことになりました。たまたま武田氏の発祥地が茨城県ひたちなか市武田であることを知りました。そこで、甲斐武田氏の発祥に大変興味を持ち調べてみました。

平安時代末期(12世紀初め頃)、源義家の弟義光は常陸国への進出を図り、長男義業(よしなり)を久慈郡佐竹郷(常陸太田市)に、三男義清を当地、那賀郡武田郷に土着させました。義清は地名をとって武田を名乗り武田氏の始祖となりました。

義清とその子清光は、武田郷周辺の古くからの豪族との間でしばしば争いがたえず、その行き過ぎた行為を朝廷に訴えられ、義清父子は甲斐国に配流となってしまいました。甲斐の国に土着した義清

父子は、新天地に甲斐源氏発展の礎を築き、その十七代後に信玄公が輩出されました。

戦国時代に戦国大名となった武田信玄公は武田氏の家中で神格視され、御旗楯無に対して「御旗楯無も御照覧あれ」と誓い出陣したといわれています。この武田家では、当主が「御旗楯無も御照覧あれ」と言うと、それまで反対意見などがあっても、この家宝の前で誓ったことは、全員が死を持っても守らなければならず、それ以上の議論は止めなければならなかったのです。「御旗・楯無」は共に武田家の家宝であり、絶対に従わなくてはならない最も神聖なものでした。

御旗というのは新羅三郎義光の父頼義が後冷泉天皇（1045-1068年、第70代）から下賜された「御旗(日の丸);現存する最古の日章旗」で、源氏の直系を示す旗です。「楯無」というのは義光が使っていた鎧（楯が無くても槍や刀を通さない丈夫な鎧）のことです。

武田節にも歌われていますが、武田氏の四天王の一人の高坂弾正忠昌信の口述記「甲陽軍鑑」の中に信玄公の言葉として、「人は石垣、人は城、情けは味方、仇は敵なり」があり、意味合いは、人心こそ強固な城以上の価値があり、城があっても人の心が離れてしまえば何もならないということです。すなわち、人に情をもって接することこそ国の要であり、人に恨みや害意をもって接してはならないということです。



御旗:山梨県塩山市雲峰寺所蔵



盾無の鎧:山梨県塩山市恵林寺蔵

なお、武田信玄公の軍旗は風林火山です。これは中国の孫子の兵法に由来し、この旗印の「風林火山」は武田節の歌詞の中で詩吟として吟じられています。

疾如風（ときこと かぜのごとく）
徐如林（しずかなること はやしのごとく）
侵掠如火（しんりやくすること ひのごとく）
不動如山（うごかざること やまのごとし）

すなわち、軍の移動は風のように速く、陣は林のように静かにひそみ、攻撃は火の勢いのように、陣形維持は山のように堅固にといった内容であり、武田信玄公を偲んで作られたのが「武田節」です。

また武田信玄公の言葉に

一生懸命だと知恵がでる
中途半端だと愚痴が出る
いい加減だと言いつがでる

この言葉は、詩舞や居合などの稽古に通ずるものがあります。

第Ⅱ章 東京地区刀法講習会および段位審査会

—刀法講習会に参加して—

野田英志

令和2年11月1日(日)、東京の幡ヶ谷区民会館で開かれた「東京地区刀法講習会」に参加しました。11流派、約40名もの居合剣士が集まり、会場は手狭、漣和流からは中島宗家、穴澤・山口さん、野田の4名が参加しました。

私は、刀法講習会は初めての体験で、13時30分より、刀法部長の挨拶や準備体操などののち、刀法講習会が無段、段位別に分かれて行われました。無段は9名で、年齢は小学生低学年から高齢者(私)までの多岐に渡り、刀法部長の江口先生から指導を受けました。講義の内容は時間の関係で刀法1本から2本を丁寧に教えて頂きました。力み過ぎないこと、肩の力を抜くこと、ただし決めるところは力を込める(スナップを利かせる)ことなどを学びました。

講習の後、段位別の演武、そして段位審査、最後に、審査者などの高段位者の模範演武などがあり、見学して得るところが色々ありました。すべての動きで滑らかさの有無が大切と感じました。確かに、力み過ぎはぎこちなく見え、腰の動きの滑らかさと安定感は、見ている気持ちよく、たぶん呼吸も含め不断の練習・鍛錬の賜物なんだろうと、自分には欠けている点を知らされた講習の1日でした。それからもう一つ、会場に40名が集まった割には、喧騒のない、意外と静かで、高齢者の私には心地よい1日でした。



講習会終了後のひと時(レストランゲスト於いて)

一刀法 4 段に挑戦

山口園雲

東京の幡ヶ谷区民会館で開かれた「令和2年東京地区刀法講習会および段位審査会」に参加しました。会場は、コロナ禍で手洗いや体温測定が徹底され、マスク着用と例年の講習とは異なる雰囲気、私たちは昼食も取れませんでした。

私は、一刀流の1名、景山流1名、凱山流3名、神燈流1名、鍛心流1名、瀨和流1名の計8名で3段の講習を受けました。

講習は弥生流の石原先生より指導を受けました。先生は、これまでの講習会で、毎回お世話になっております。先生の指導は真剣(本身)で行い、どちらかという実戦的な身のこなし方で、中島先生とは一寸違う面もあり色々と参考になりました。また、居合は、敵の不意の攻撃に対し、一瞬をおかずに刀を抜き敵に乗ずる隙を与えず勝つ技であり、特に、刀を抜いた最初の一刀が抜きつけで、刀の切先が鯉口の3寸で素早く鞘離れすることが重要であり、居合の生命であることなど実演を踏まえて教えて頂きました。

今回の講習会では、私は75歳と年を重ねるにつれ、体力の低下、また、コロナ禍で外出が制限され散歩もままならず、体調不良が甚だしく、本日はやっとのことで会場に到着し、何とか講習を受けました。

講習修了後、服装を整え、4段の審査に臨みました。4段の審査を受けたのは、一刀流の梨羽刀月氏(若い男性)、景山流の折茂純子氏(若い女性)、瀨和流の私の3名でした。

審査にあたり、受験者は、まず、円陣になりお互いの挨拶を行いました。その後、心を落ち着かせ、審査会場の中央に進み、左から折茂氏、山口、梨羽氏の順に並び(横並び)で審査を受けました。

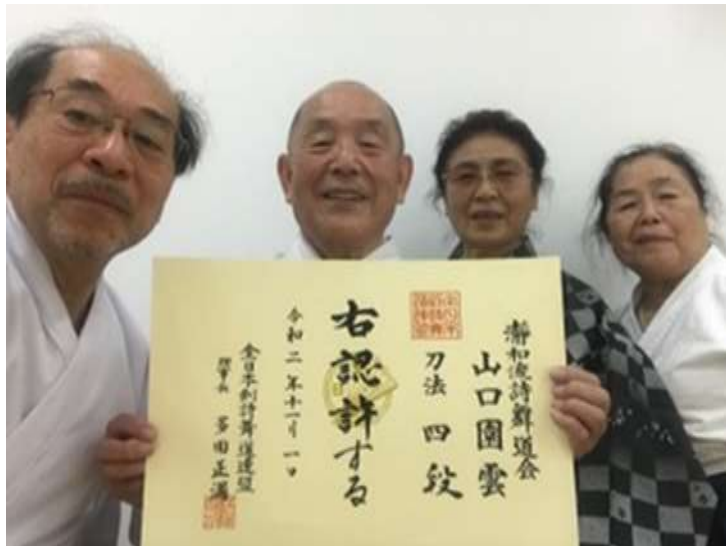
演武は始めの合図で、各々、神殿の礼や刀礼で始まり、刀法1本から5本を行いました。1本目のはじめは3者だいたい揃っていましたが、左に位置する折茂氏が若干早く、右の梨羽氏が遅れ気味でした。演武中、左右両者の刀の響きに圧倒され、年の差を感じましたが、左右両者の動作を強く感じるなど、こちらも精神的に余裕がありました。特に、今回の昇段審査では、左右の動きや前方にいる審査員、前にいた中島先生の顔がよく見えました。結果は如何であろうとも、自身は良くやったと思います。

居合の演武は、挨拶で始まり、礼、抜きつけ、血ぶり、残心、納

刀、礼、挨拶で終わります。

今回の昇段審査は、全体的には良くできたものと思います。しかし、抜きつけ、足の踏み込み、切り下し、突き、受け流し、振りかぶり、残心、血ぶり、手の内や体さばき、納刀までの各所作における間合い、徐、破、急ができていたか、中島先生の言う各所作が美しくできていたかなど、今後まだまだ学ぶことが多いと痛感しました。

講習終了後、瀬和流の皆様とレストランガストで夕食をとり、今日一日が有益であったことを実感しました。後日、中島先生より4段に昇段したとの連絡を受け、ますます稽古に励み高段位を目指したと思いました。中島先生、ご指導のほどありがとうございました。



仲間とともに昇段に喜ぶ

—居合について—

山口園雲

居合は敵の不意の攻撃に対して、一瞬をおかずに刀を抜き、敵に乗ずる隙を与えないで勝つ剣技です。その源流は、古く奈良朝あるいは平安時代の初期に芽生えたとしますが、一般的には、戦国時代に考えられた刀術で、初めは戦場で「槍」や「薙刀」などが折れたり、切断されたとき咄嗟に腰の太刀或いは短刀を抜いて敵に応じたのが工夫され、やがて剣道と同じに研究発達して、各武術の組形の中に取り入れるようになったとされています。そして、今日、居合の始祖は奥州出羽国林崎

村(現、山形県村山市楯岡町)の剣客林崎甚助源重公とされています。

江戸時代は数多くの流派が生まれました。現在、各連盟に加盟している流派は、無双直伝英信流及び夢想神伝流が多数を占めています。次いで土佐直伝英信流、伯耆流、田宮流、無外流、無双新伝流など多くあります。

上述した居合は、日本刀(打刀とは限らない)を鞘に収めた状態で帯刀し、鞘から抜き放つ動作で一撃を加えるか相手の攻撃を受け流し、二の太刀で相手にとどめを刺す形、技術を中心に構成された武術です。

日本吟剣詩舞道連盟では、居合を刀法と定め、現在、基本の技を1から7本にまとめています。

一本目

この技は、大森流の初発刀に無外流の前後斬りを加味して大森流の血振り納刀に終わります。すなわち、正面着座の敵の殺気を感じ、切先を制して「こめがみ」に抜き付け、真っ向に切り下して、また、後方の敵の「こめかみ」に抜き付け、真っ向に切り下し、さらに、正面の敵を切り下してとどめをさして勝つものです。

二本目

この技は、荒木流のスクイ斬り、腰切りに栄信流の諸手突きを入れ、八相、残心に終わるものです。すなわち、前からの敵が刀を振りかぶって斬りかかろうとするのを左袈裟に切り上げ、ひるんで後退する敵の水月(みそおち)を突く、敵が上段にて切り下してくるところを刀でカマシながら右袈裟切り下して勝つものです。

三本目

この技は、境神明智流の両眼抜き付けに田宮流の受け身、逃身を加えて英信流、田宮流の逆納刀に終わります。すなわち、歩行中に、右側正面より上段に振りかぶってくる敵のこめかみに抜き付け、一度引いて上段より切り下し、右側面から敵が切り込んでくるのを受け流しながら右順袈裟で勝つものです。

四本目

この技は、田宮流の片手抜き打ちに神道無念流の切り返しを入れ神道無念流の納刀に終わります。すなわち、歩行中右側から攻めてくる敵の顔面に右袈裟抜き付け、正面の敵の顔面に真っ向に切ける。更に、次の敵が上段から切り下してくるのをカマシして切り下しますが、敵が引いたため一歩一刀の間合いに構え合い、鎧をはねあげて敵の右袈裟顔面に打ち込み勝つものです。

五本目

この技は、英信心流奥の片手突きに伯耆流の切り上げの諸手突きと片手の使い分けを入れて田宮流の上段、残心、納刀に終わります。すなわち、四方に敵が居合わせ、最初左右の敵を制し、後方の敵を切り、正面の敵に勝つ。(右側の敵を牽制しつつ、左側の敵を刺す。後方の敵は右袈裟切りあげで、正面に向いて真っ向に切り下す)。

六本目

この技は、全日本剣道連盟制定居合を取り入れ、前後三人の敵の殺意を感じ、まず正面の敵の顔面に柄当てし、怯んだところを水月へ突き刺し、続いて後方の敵を真っ向から切り下します。さらに正面の敵を真っ向から切り下して勝つものです。

七本目

この技は、田宮流、英信流、神伝流を採りいれ、歩行中敵の殺気を感じ追い込んで連続技で勝つものです。すなわち、正面の敵の胸部を横一文字に抜き付け、刀を頭部に振りかぶり、敵の肩から水月まで右袈裟で斬り付け、再び頭上に振りかぶり、左袈裟から太腿に斬り付ける。さらに、頭上に振りかぶり右から胴に斬り付ける。次に、頭上に振りかぶり、左腰に構えて敵の胴を両手で横一文字に斬り、一步踏み込んで、頭上に振りかぶり真向に斬り、横血ぶりして内刀するものです。